

## 2018 年度 小委員会活動成果報告

(2019 年 2 月 15 日作成)

小委員会名	適応都市検討小委員会	主 査 名：渡邊浩文 就任年月：2017 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	地球環境委員会	委員長名：伊香賀俊治
設 置 期 間	2017 年 4 月 ～ 2019 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>気候変動適応はエネルギー消費だけでなく、建築構造や災害対策に対しても考慮する必要がある。更に将来予想される社会変動への対策と適応も急務の課題となっている。本小委員会では、都市気候学的視点からの将来予測手法の高度化に加え、本会の関連他分野との協働を推進する取り組みにも注力し、活動を行う。</p> <p>初年度： ・気候変動・社会変動への適応に関する、本会の関連他分野との協働を推進する取り組みに注力する</p> <p>2 年度： ・前年度活動を踏まえ、本会の調査研究活動としての課題の抽出を行う ・検討結果を公表するための企画立案とその実施 ・活動の取り纏め</p>	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無	
	渡辺浩文(東北工業大学), 大岡龍三(東京大学), 飯塚悟(名古屋大学), 竹林英樹(神戸大学), 浅輪貴史(東京工業大学), 足永靖信(国総研), 近藤明(大阪大学), 成田健一(日本工業大学), 鳴海大典(横浜国立大学), 萩島理(九州大学), 持田灯(東北大学), 吉田伸治(福井大学), 菊本英紀(東京大学)	
設置 WG (WG 名：目的)	<p>①気候変動モデリング WG 地球スケールから大陸・国スケール、都市スケールに至る温暖化ダウンスケーリングシミュレーションにより、将来の気候変動下の都市気候予測を行う。複数のシミュレーションモデルや将来シナリオを導入し、予測の不確実性についても検討する。</p> <p>②適応都市定義 WG 気候変動や社会変容等により都市を取り巻く環境は大きく変化している。適応都市小委員会では、それらに適応する都市を適応都市 (Adaptive City) と命名したが、その具体的な定義は未だ定まっていない。適応都市の定義を行うとともに、その評価手法の確立を目的とする。</p>	
2018 年度予算	80,000 円	ホームページ公開の有無： 委員会 HP アドレス：

項 目	自 己 評 価
委員会開催数	2 回 (メール審議・年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	<p>1. 気候変動モデリング WG における議論を経て、将来の気候変動下の都市気候予測高度化を進展させることができた</p> <p>2. 適応都市定義 WG にて、本会各分野の研究者による議論を開始できた 上記により、当初の活動計画に対して成果が得られたと考えられる</p>
委員会活動の問題点・課題	本会の関連他分野との協働を推進する取り組みは、今後も継続する必要があると思われる

